

はじめに

沖縄国際大学は、「地域連携」を使命とし、「地域協働、産学官連携」の推進を研究目標の一つとしてきました。昨今、これらを包含する「社会貢献」は、教育、研究に次ぐ大学の「第三の使命」（中央教育審議会）ともいわれています。

こうした動向を踏まえ、平成28年度第2回自己点検・評価委員会（平成28年7月28日開催）において、社会貢献・地域連携に関することが自己点検・評価の項目の一つとされ、点検の結果、「事例紹介などの啓発活動に取り組む」という提言がなされました。

『沖縄国際大学 社会貢献・地域連携 通信』は、最近の学内の話題から、社会貢献・地域連携に関わるものをピックアップして、随時、紹介するものです。こうした情報が、本学におけるさらなる社会貢献・地域連携のためのヒントとなることを期待しています。

副学長 小柳正弘

「学生の学びと社会貢献・地域連携」

「ワーカーズコープ論」講座（沖縄経済環境研究所）

Key Word : 働き方、地域コミュニティ、協同〇〇、寄付講座、正課内学習

沖縄経済環境研究所では、2016（平成28）年度から、一般社団法人協同総合研究所の提供講義、「ワーカーズコープ論」を開講しております。

昨今、雇われる働き方から様々な問題（例えば、低賃金、ブラック企業、ブラックバイト、リストラなど）が生じています。これらの問題をどのように解決すべきか、と考えられた組織がこのワーカーズコープ（労働者協同組合）です。

仕組みを簡単にまとめると協同出資、協同経営、協同労働という3つの協同を理念とされています。もともとこのような考え方は、沖縄や奄美の各地で見られる「共同売店」にも通底するものであります。沖縄・奄美では小売店の仕組みに端を発しますが、他の地域では託児所、BDF（バイオディーゼル燃料）事業所や高齢者介護事業所など様々な事業が展開されていることにも特徴があります。

最終日にレポートの作成と提出という運びとなります。上記のような取り組みを本学学生に教授することで、雇われる労働から雇われない労働への視野の拡大も期待される所です。

また、ワーカーズコープ論を受講した総合文化学部人間福祉学科の藤山夏海さんが野村総合研究所（NRI）学生小論文コンテストで奨励賞を受賞しました。

※詳細は、冲国大受験生応援サイト「オキコクスタイル」 2017.02.01記事

〔学生インタビュー〕NRI学生小論文コンテストで奨励賞を受賞した藤山夏海さんの記事（経営広報役員室執筆） をご参照下さい。

本記事は広報課2017（平成29）年第1回記者懇談会資料からの転載です。

※2018（平成30）年度は8月末開講で、座学に加えて事業所訪問も予定しています。

「研究活動と社会貢献・地域連携」

本学大学院と沖縄税理士会との包括的連携に関する協定（大学院）

Key Word：税務、税法、会計、税理士、共同研究、大学院

2017（平成29）年6月16日本学大学院と沖縄税理士会は、地域貢献と双方の発展に資するため、包括的な連携・交流・協働に関する協定を締結しました。

この協定は、本学大学院と沖縄税理士会が相互に協力し、地域社会及び双方の発展と人材育成に寄与することを目的として、以下の事項について活動していくこととしています。

- ・双方の会員に対する研修
- ・双方会員に対する講演会・特別授業の実施に関する事項
- ・双方の会員による税に関する共同研究活動の実施に関する事項
- ・双方における租税法に関する教育活動に関する事項
- ・次世代を担う税理士の輩出・育成に関する事項
- ・租税教育に関する事項
- ・税務・会計分野における国際協力に関する事項
- ・その他、双方が必要と認める事項



前津榮健 学長と友利博明 沖縄税理士会会長(当時)

本記事は広報課2017年第1回記者懇談会資料からの転載です。



「生涯学習を支える」

冲国大ラジオ講座～万国津梁を目指して～（本学教員）

Key Word：研究活動、生涯学習

2017（平成29）年10月より地元の中波ラジオ局、ラジオ沖縄(864Hz)で毎週水曜日の18:30～18:45の15分間、本学で日々どのような研究や教育を行っているのかを発信していく番組を放送しています。

本学日本文化学科卒業生の同局小橋川アナウンサーが司会進行を務め、毎回本学教員の研究テーマについて巧みなトークで、一般聴取者に分かりやすく伝わるよう聞き出し、沖縄の各所にアカデミックな香りを届け、知的好奇心を満たしています。

2017（平成29）年度は以下の内容を放送しました。

講師	テーマ	講師	テーマ
前津榮健	大学紹介・行政法について	泊 真児	高校生のための心理学講座
村上陽子	沖縄文学について	砂川かおり	米国の環境法を通して、米軍機によるトラブル問題を考える
名嘉座元一	沖縄における若年者雇用問題		
比嘉里麻	沖縄の人とブタの関係	伊達竜太郎	沖縄の経済政策と法
小渡 悟	バーチャルリアリティの世界へようこそ	上江洲律子	こんにちは、フランス語
比嘉昌哉	子どもの貧困対策について	宮森正樹	マーケティングのおもしろ話し
佐藤 学	アメリカ政治の今と日本との関係	素民喜琢磨	沖縄文学の重要さ

※2018（平成30）年度収録済みは（放送済みを含みます）以下のとおりです。

講師	テーマ	講師	テーマ
安次富郁哉	認知症患者を地域で支えるために	安原陽平	先生になること オキコクノキョウシヨク
山口真也	図書館学を学ぶってどんなこと？		



沖縄大の社会貢献推進体制

「社会貢献」は近年、企業のみならず、大学にも求められ、多くの大学で地域連携や産学連携が活発化し、多くのメディアがその内容を取り上げています。

総務省は「域学連携」のメリットとして、地域のメリットでは「大学に集積する知識や情報やノウハウが活かされる」「地域で不足する若い人材力を活用」「地域の活性化」、大学のメリットでは「実践の場が得られる」「教育・研究活動へのフィードバック」、地域と大学の共通のメリットでは「学生や地域住民の人材育成」があるとしています。

沖縄国際大学における社会貢献推進に係る当面の体制として、「社会貢献全般」の統括・調整(教学)は小柳副学長、調整(事務)は鶴池常務理事、「地域協働部門」では責任者が図書館長の上江洲、事務責任者が総合企画室の仲宗根事務部長、「産学連携部門」では責任者が安里学生部長、事務責任者が総合企画室の山里参事となっています。

「地域協働部門」では各種の包括協定等の手順や枠組みを検討するとともに、地方公共団体等との協働を協定等が締結できるように推進、また、「産学連携部門」ではイノベーション協議会や産学協力会との連携を継続するとともに、関連団体や企業等との連携を協定等が締結できるよう推進していく予定です。

図書館長 上江洲 薫

「学生の学びと社会貢献・地域連携」

宜野湾市教育委員会と連携・協力に関する協定を締結（教職課程）

Key Word: 学校ボランティア、教職課程、中学校、学力向上、正課外学習

沖縄国際大学と宜野湾市教育委員会は、この度、相互に連携・協力していくための協定を締結いたしました。具体的には宜野湾市が所管する嘉数中学校の教育に関わる調査・研究及び事業等に協力していきます。

この協定の下、2017（平成29）年度から「学校ボランティア実習プログラム」を実施しています。本学教職課程を履修している2年生以上の学生を、嘉数中学校での学習支援活動に派遣します。前期・後期それぞれ10名前後の学生が、嘉数中学校の特定授業において、授業補助者として活動します。本プログラムが地域貢献並びに教職を目指す学生への教育実践の場の提供となることが期待されます。

2017年5月2日に宜野湾市教育委員会教育長室で行われた協定調印式において、知念春美教育長からは「宜野湾市の中学校教育において課題がある中で、学力の底上げを図りたい」と本協定に対する期待が述べられました。

なお、2018（平成30）年度は4月25日（水）に前期プログラムへ参加する10名の学生が嘉数中学校を訪問し、事前ガイダンスが行われました。プログラムは5月7日（月）から始まっています。



写真は2017年度（前期）学校ボランティア実習プログラム事後ガイダンスの様子
本記事は広報課2017年第1回記者懇談会資料と本学Webページからの転載です。

「研究活動と社会貢献・地域連携」

第26回フォーラム「沖縄型グローバル人材の育成」(産業総合研究所)

Key Word:産・官・学連携、ネットワーク、グローバル人材、ビジネス、語学、デジタルリテラシー

産業総合研究所では教員が兼務する研究所員の他、県内外の産業、経済、行政官庁、国内外の大学研究所等の専門家を特別研究員としてプロジェクトを組んでいます。沖縄県の産業発展に関する研究を行うと同時にプロジェクトを実施するにあたり民間では難しい地域・分野を超えた産・学・官の人的および情報ネットワークを構築しております。

2017(平成29)年度に開催したフォーラム(2017年11月11日、共催:沖縄タイムス社)では、「沖縄型グローバル人材の育成」をテーマとして、2010年に策定された沖縄21世紀ビジョンにおいてリーディング産業として更なる高度化・多様化を進めることとされている「観光事業」と「情報通信関連事業」において、これらを担うグローバル人材に必要な、ビジネス・語学・デジタルリテラシーを、産業界と大学機関がどのように取り組み連携して育成するべきかについて、前村 所長の挨拶と二つの基調講演の後に、パネルディスカッションでは6名のパネリストを迎え、安里 肇所員のコーディネートにより熱い意見を交換しました。

基調講演

- ・「地域主導型観光がグローバル経営戦略につながる!」東 良和氏(沖縄ワリス株式会社代表取締役会長)
- ・「観光立県沖縄」が「観光立国日本」を牽引する佐藤 健人氏(ハイアットリージェンシー那覇沖縄総支配人)

パネリスト:東 良和氏(沖縄ワリス株式会社 代表取締役会長)、佐藤 健人氏(ハイアットリージェンシー那覇沖縄 総支配人) 譜久山 健氏(一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 常務理事)、山崎 暁氏(株式会社FROGS Founder/CEO/Ryukyufrogs General Organizer)、小渡 悟氏(産業総合研究所所員)、上原 千登勢氏(産業総合研究所所員)

本記事は本学Webサイトと当日の配布資料からの抜粋転載です。

「生涯学習を支える」

「南島文化地域学習」を実施(南島文化研究所)

Key Word:地域、自然、歴史、文化、地域学習、生涯学習

2017(平成29)年度も毎年実施している南島文化地域学習を実施しました。第41回目となる今回は「伊江島の歴史・自然・文化を学ぶ」と題して6月24日(土)~25日(日)に1泊2日で伊江島について学習しました。

学生13名、一般3名、および講師に南島文化研究所所員および特別研究員や地元の教育委員会の方を迎えて総勢27名での地域学習となりました。

巡検場所:はにくすに郷土資料館、アーニーパイル碑、ミサンカザント、ニィヤティヤ洞、米軍飛行場、団結道場、湧出(ワジー)、ハダの植物群落、浜崎貝塚、城山(伊江島タッチュー)、阿良御嶽、ヌチドゥタカラの家、芳魂之塔、公益質屋跡などでした。

参加者からは次のような感想が寄せられました。(アンケートより抜粋)

・一言で言うと心地よい「疲労感」という思いです。単なる観光では聞くことのできないお話だけに充分満足しています。(一般)

・各専門の先生方の解説のおかげで「伊江島における自然・歴史・文化」を広く学ぶことが出来た。今回の地域学習のおかげで、琉球王国時代における伊江島の位置づけについて、いくつかの研究課題も見つけることが出来たので良かった。(学生)

本記事は本学Webサイトからの抜粋転載です。



他大学における社会貢献の取り組み(1)

大学の地域連携や産学連携などの社会貢献が求められているなか、衰退する地方都市における中心市街地の活性化について、大学の物的・人的資源を活用する大学がある。

同志社大学大学院総合政策科学研究科では、京町家を買付け、「江湖館」と名付けゼミを定期的に行い、京都大原にある農地を借り受けてそこで生産された農作物を調理し、地域住民と意見交換を行っている。大東文化大学環境創造学部では、商店街の空き店舗を改装して小教室を設置し「なかい環創館」と名付けた。商店街の夏の販売促進イベントやクリスマスなどに学生達が手伝っている。また、徳島文理大学では商店街に「なちなか教室」を設置し、商店街の活性化を商店街振興会の方々や教員、学生たちとで討論会を開いたり、就活に関連してOBを「まちなか教室」に来てもらいOB訪問を行ったり、授業やゼミ、音楽学部の学生による公開練習、卒論制作物の展覧会などを行っている。「まちなか教室」で行う取り組み内容に参加する人達の中には、自家用自動車を有料駐車場に止めても参加する方もおり、大学の活動の集客力の強さを示している。

・参考文献: 松村豊大(2012)「大学の地域貢献についての一考察」徳島文理大学研究紀要83、91-98.

図書館長 上江洲 薫

「学生の学びと社会貢献・地域連携」

「Teen support room 沖縄(おきだね)」(福祉・ボランティア支援室)

Key Word: 中学生、学習支援、居場所、ひとり親、宜野湾市、ボランティア

福祉・ボランティア支援室では、宜野湾市との協働の下、市内の母子家庭または父子家庭(ひとり親家庭)の中学生の学習習慣等の基本的な生活習慣の習得や学力向上を図るとともに、中学生が高校進学を含めた将来への視野を広げることで、ひとり親家庭の自立を促進することを目的として「宜野湾市ひとり親家庭子どもの生活・学習支援事業(Teen support room 沖縄)」を実施しています。

対象となる中学生は、毎週火曜日(祝祭日は休み)の18:00~20:00に学びの場となる本学9号館介護実習室で、学習支援ボランティア(本学学生)の個別指導による学習支援および進路に関するアドバイスが受けられるほか、スポーツ活動、映画鑑賞、クリスマスパーティーのイベント参加、大学構内探検等、大学生との関わりを通し、学びの楽しみ、高校や大学といった上級学校への理解や進学意欲の醸成、そして何よりも「安心できる居場所」をひとつ、得ることが出来ます。

これらの支援を行うため、学習支援ボランティアはスキルアップ研修を受講し、学習支援コーディネーター(宜野湾市児童家庭課)を交えた毎回の終了時ミーティングや月1回の定例ミーティングによって、中学生の学習の進捗状況や生活の様子等を共有し、一人一人に合った支援を確認し合うことで、以後の中学生たちの心と身体の成長に繋がっています。

今年度は15人の中学生の学びを20人の学習支援ボランティア(本学学生)が支えています。

(本記事は、今年度第1回記者懇談会資料を基に宜野湾市児童家庭課の皆様のご協力を得て作成しました。)



「研究活動と社会貢献・地域連携」

「宜野湾市との地域連携事業について」（経済環境研究所）

Key Word: 自治体との連携、共同研究、地域経営、地域活性化

沖縄経済環境研究所では、平成29年度～30年度の期間で宜野湾市との地域連携事業がスタートしています。本事業は、沖縄国際大学沖縄経済環境研究所の所員と、宜野湾市の産業政策課、企画政策課の職員が連携し、宜野湾市の市民ニーズや市の課題を把握し、的確な政策判断を決定するための様々なツールを行政と共同で研究し、政策現場にフィードバックし、効率的な政策判断に資することを目的としています（以下、研究計画書を一部引用して紹介いたします）。

特別研究プロジェクトの背景

平成の大合併や道州制の議論など地方分権の動きが再び活発化されている。安倍政権下の現在、昨年度は地方創生事業として市町村毎に地方創生計画の作成が求められるなど、従来の国からの補助に依存する形を見直す動きが見られる。今後は地域独自創意工夫により、地域経営を行っていく必要不可欠な時代となっている。

そのため、地域の独自性を打ち出し、地域住民のニーズをしっかり受け止め政策に反映することが以前にも増して重要になっている。

一方、大学の存在意義として地域貢献をいかに果たすかが問われている。そのためには地域に対し大学にある知見をいかに地域活性化に役立てるかが重要となってくる。

学術的特色・意義

研究所の地域貢献の実現と大学内の教員にとっては、市行政の現場を知ることを通して、理論にフィードバックすることができ、知見を高めることが可能となる。また、行政側にとっても行政の現場を理論的に理解することができ職員のスキルアップにつながる。アカデミックの域を超えて実践的な研究分野を開拓することができる。（本記事は広報課2017年第1回記者懇談会資料からの抜粋転載です。）

なお、先日6月7日に、2017（平成29）年度に実施した市民アンケート調査とその分析結果について名嘉座元一 所長から佐喜眞淳宜野湾市長ならびに松川正則副市長への報告がなされました。

「生涯学習を支える」

「うまんちゅ定例講座・変わる沖縄」（公開講座委員会）

Key Word: 生涯学習、県民カレッジ、地域環境政策学、変わる沖縄

うまんちゅ定例講座は、地域に根ざした大学として、地域の方々と、日常や将来の糧になるような知識を共有できればとの観点から、毎年テーマを設定し、わかりやすく解説し考えていく講座です。

本学では昭和52年第一回公開講座委員会が開催されたのを契機として、地域に貢献する大学として、大学拡張・大学開放の分野に本格に取り組むこととなりました。平成3年には事務局管が教学課から広報課に移管されたのを機に、公開講座の大幅な見直しが行われ、現在のような公開講座の原型が出来上がりました。

平成22年度には、より親しみやすい講座の提供を心掛け「うまんちゅ定例講座」と名称を改めました。

今年度は「変わる沖縄」～地域環境政策学の視点から～というテーマで、以下の受講案内の下、講座が始まっています。（昭和から平成の公開講座の変遷については「平成16（2004）年度点検・評価報告書」を参照しました。）

島嶼県・沖縄が抱える経済振興と、環境保全、生物保護、米軍・自衛隊基地問題と離島振興、経済格差と貧困問題の克服など「変わる沖縄」の現在、過去、未来を「地域環境政策学」の様々な視点から、経済学部教員と一緒に勉強します。身近にある問題をそのままにせず、今後のより良い沖縄のために、皆様の生活を豊かにするエッセンスとしてお役に立てれば幸いです。たくさんの方々の受講をお待ちしております。

なお、各回の内容は（終了回を含め）以下のとおりです。

第1回	6月2日(土)	政府の沖縄振興は何をもたらしたか	前泊 博盛
第2回	悪天候で延期	離島村落における意識構造と環境配慮行動の違い	渡久地 朝央
第3回	6月30日(土)	観光地の活性化と観光関係税	上江洲 薫
第4回	7月7日(土)	沖縄から全ての「基地」が無くなったら沖縄経済はどうなるか。	友知 政樹
第5回	7月14日(土)	フランスの沖縄？！～ブルターニュ地方～	上江洲 律子
第6回	7月21日(土)	AR活用による地域活性化の可能性	根路銘 もえ子
第7回	8月11日(土)	沖縄農業の変容	小川 護
第8回	8月18日(土)	遺伝子配列から解き明かす沖縄の生物多様性	斉藤 星耕
第9回	9月15日(土)	金融で変える地域と環境	島袋 伊津子
第10回	9月22日(土)	あんやたん！沖縄の貝～貝類利用の移り変わり～	山川 彩子
第11回	9月29日(土)	湿地の保全とワイズユースについて	砂川 かおり
第12回	10月6日(土)	干潟における環境・経済と地域発展～沖縄、日本、韓国を事例として～	呉 錫畢



写真は第1回の様子

「生涯学習を支える」

地域に開かれた図書館

Key Word: 図書館、学外利用、米軍ヘリ墜落事件資料

図書館規程第16条は「図書館資料は、本学の職員及び学生の利用に支障のない限り、学外者にも利用を許可する。」と定めており、所定の利用者手続きをとることで利用が可能となっております。

1日利用申請は、申請書と身分証明書の提示により可能で、「1日利用者カード」を用いて図書の閲覧や複写のサービスを受けられます。2017年度は30,457人の利用がありました。また、年度を通して図書館を利用したい場合は、申請書と身分証明書、証明写真の提出で「利用者カード」の発行が受けられ、図書の閲覧、複写、AVコーナーの利用といったサービスが受けられます。2017年度は304人の登録がありました。

利用者は本学卒業生、退職教職員、他大学学生、専門学校生、一般市民と多様であり、本学の夏期・春期休業期間に限り高校生の利用も可能としています。

なお、図書館では平成16(2004)年8月13日(金)14:15頃に起こった「米軍ヘリ墜落事件」の資料を収集・展示しており、本学学生や県内の児童生徒、一般市民、県外からの修学旅行生、他大学学生等の見学に供して平和学習の場として広く活用されています。(平成30年度「自己点検評価書」から転載)

※今年も8月13日の「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語り継ぐ集い」の後図書館4階AVホールで学生による朗読ライブを予定しております。

「学生の学びと社会貢献・地域連携」

認知症カフェ「まなびやカフェ」(安次富ゼミ)

Key Word: 認知症、高齢者、福祉、正課学習

「宜野湾市地域包括センターぎのわん」と連携した県内大学初となる認知症カフェ「まなびやカフェ」が2018年2月にオープンしました。カフェは、「認知症について、学ぶ場」であり、「認知症あるいは介護について心配なことを相談できる場」であり「リラックスして楽しめる場(日常的な場であり、非日常的な場でもある)」として本学キャンパスで運営され、安次富ゼミの学生(認知症サポーター)がボランティアとして利用者やスタッフを支える役割を担っています。

各回の内容は多彩で、お茶とお菓子を囲みながらの参加者同士の語らいのほか、認知症予防体操の実演、専門職員による介護に関する講和、音楽鑑賞、映画鑑賞等を実施、あるいは予定しており、物忘れが気になってきた方や高齢者を介護するご家族の方、高齢者の生活を支える専門職種の皆さん、身体介護・認知症介護についてもっと知識を深めたいと思っている地域の皆さんなどが参加して**毎月第四金曜日の午後2時～4時にオープン**していますので、教職員の皆様もお茶菓子代の小銭をポケットに入れて、学生を誘って出かけてみてはいかがでしょうか。

「まなびやカフェ」の問合せ窓口: 宜野湾市地域包括支援センターぎのわん 098-896-1339

なお、安次富ゼミでは年1回「認知症サポーター養成講座」を開講し認知症について知りたい方、身近に認知症の人がいる方、少しでも興味のある方へ受講を呼びかけています。

認知症サポーターになったからといって、何かをしなければならないということはありません。サポーターは認知症を正しく理解し、認知症の人や、その人を取り巻く家族の良き理解者となる存在です。

※今年度の講座は11月に開講を予定しております、学生、教職員
多くの皆様の受講をお待ちしております。



(上記はイメージ、提供茶菓子とは異なります。)

「沖縄経済環境研究所地域連携プロジェクト」

沖縄経済環境研究所では、平成29年度から宜野湾市との地域連携事業を行っている。この事業は、名嘉座元一所長が大学の地域連携の必要性を感じ、宜野湾市の産業振興計画等の委員会に委員として参加していたこともあり、宜野湾市に提案し開始された。当初は産業振興や観光関連の地域貢献を考えていたが、宜野湾市の多くの部署の提案の中から、最も熱心な担当者が「自治体」に関する提案を行い、「自治会の共同研究」のプロジェクトが始まった。本プロジェクトの目的は、宜野湾市の重要課題の改善に向け、大学の知見をまちづくりに活かし、宜野湾市のよりよい政策展開に繋げていくことである。また、市役所職員の育成・向上や研究所の人的資源等の活用も目的の一つである。

共同研究であることから、宜野湾市市民生活課の職員と共に研究がすすめられ、研究所からは名嘉座元一所長、平敷 卓所員、金城敬太所員、比屋根良直特別研究員、大城尚子研究支援助手が中心となり実施されている。調査は調査票をWebの活用や郵送したり、市内の企業や学校等に直接配布を行った。研究所はWebや郵送およびデータ入力作業を担当し、郵送費用を負担した。

平成30年1月から3月にかけて実施されたアンケートの分析結果は、6月7日（木曜）に佐喜眞淳宜野湾市長や松川正則副市長へ報告され（写真）、また、7月6日（金曜）には宜野湾市の各自治会関係者との「自治会に関するニーズ調査」に関する報告会・意見交換会が行われた。今後は宜野湾市と共同で提言書を作成するとともに、23の自治会の自治会長や役員などにアンケートやグループインタビューなどを実施し、自治会運営側の課題などを明らかにする予定である。

なお、自治会アンケート調査の結果は、宜野湾市および沖縄経済環境研究所のホームページに掲載されているので、興味のある方はぜひご覧下さい。



写真1 宜野湾市役所での報告会の様子（沖縄経済環境研究所提供）

沖縄経済環境研究所では6月29日に、四国大学地域教育連携センターの峪口有香子（地域連携コーディネーター）氏を招き、「四国大学「とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業」の取り組みについて」をテーマに第1回研究会が行われた。

平成26年度から採択された地（知）の拠点整備事業では、主に「地域研究」「地域教育」「地域貢献」に分かれ、「地域貢献」ではサテライトオフィスの設立、ショッピングセンターでの書道パフォーマンス、特産品詰め合わせセット開発、留学生モニターツアーなどが行われている。主な成果として、「教育分野での新たな特色化・充実」「地域研究の進展と地域活性化への貢献」「地域に貢献する大学としての認知」がある一方で、「組織的対応・意識改革・継続」「活動拠点の確保」「予算の確保」などが課題となっていると、述べられた。



写真2 報告会の様子（左：沖縄環境研究所提供）と事業パンフレット等

注:「SUDAchi CARD」とは地域貢献・ボランティア活動を行った事を証明するためのスタンプ帳。

※第2回研究会が8月8日（水）午後1時から本学13号館1階会議室で、伊芸研吾氏により

「エビデンス（科学的根拠）に基づく政策形成の実践に向けて：発展途上国援助分野からの提言」をテーマに行われます。

龍谷大学における社会連携・社会貢献の取り組み(1)

先月の30日・31日に京都市にある龍谷大学において開催された私立大学図書館協会総会・研究大会のシンポジウムでは、図書館のデジタルアーカイブについての講演があり、図書館の所蔵資料の公表方法やその社会貢献的意義などの説明があった。龍谷大学の図書館（写真）も歴史を感じ素晴らしかったが、ここでは龍谷大学の社会連携・社会貢献の取り組みを紹介する。

龍谷大学の役割の一つに、エクステンション（普及）を掲げ、1991年に龍谷エクステンションセンター（通称「REC」）を開設し、産学官連携・地域連携・生涯学習を中心に活動を行っている。地域連携では、RECでは大学内の団体・グループによる自治体・企業等との連携活動をサポート、マッチング等を行っている。例えば、「ボランティア・NPO活動センター」では河川の野宿者に向けての物資支援や生活状況の聞き取り、児童館でのサマーフェスティバルの運営、東日本大震災等復興支援などの活動を行っている。

地域連携シーズバンクwith Dragon : <http://withdragon.rec.seta.ryukoku.ac.jp/>

図書館長 上江洲 薫



龍谷大学・大宮図書館

「学生の学びと社会貢献・地域連携」

「地域セミナーⅡ」での取り組み（経済学部地域環境政策学科）

Key Word: 地域の課題、PBL、アクティブラーニング、観光資源活用、社会調査、市場調査

経済学部地域環境政策学科では、企業や自治体といった外部組織と連携し、連携先の抱える課題解決に学生が取り組むことによって、学生が課題解決能力を身につけるのみならず、連携先の課題解決に学生が貢献するという相互互惠を目的としたPBL（Project Based Learning）型授業を必修科目として開設・開講して来ました。

昨年度は1クラス18名で島袋伊津子、齋藤星耕、山川彩子、上江洲薫の各教員が担当する4クラス計72名の学生が宜野湾市と浦添市の観光振興をテーマに、地域資源を生かしたプロジェクト提案を行いました。

昨年度の授業は9月29日の初回ガイダンスに始まり、宜野湾市観光振興協会と浦添市観光協会からそれぞれ観光分野の課題についてレクチュアを受けた後に、社会調査方法に関する講義を受講してグループワークによる市場調査等を実施し、情報整理と中間まとめ、課題解決案の策定に取り組み、11月17日には、これらの取り組みについて中間発表を行い作業進捗確認、学生間の意見交換を行いました。

12月15日の最終報告会では、宜野湾市観光振興協会と浦添市観光協会の審査の下、宜野湾市については地元特産物の「田いも」を加工したアイスを試作したうえ、SNSでの宣伝方法を提案したチームが、浦添市についての発表では市内の城跡や石畳を背景に紅型の衣装など琉装を楽しんでもらうプロジェクト提案を行ったチームがそれぞれ優勝しました。

※日本私立大学協会のWebサイトではPBLやワークショップ学習等のアクティブラーニングについて、全国の様々な事例を紹介しています。

URLは<http://www.shidaikyo.or.jp/apuji/activity/2013-kyoujuhou.html>

「研究活動と社会貢献・地域連携」

心理相談室（大学院地域文化研究科人間福祉専攻・臨床心理学領域）

Key Word: こころの健康、よりよい生き方、臨床心理士、臨床心理学

心理相談室は、大学院 地域文化研究科の附属施設として、臨床心理士の養成を目指す同研究科・人間福祉専攻（臨床心理学領域）の教育・訓練の場としての役割とともに、本学の建学の理念である「地域社会への貢献」を具現化するために平成15年12月24日に設置されたもので、今年で開室15年目を迎えます（※「臨床心理士養成に関する第2種指定大学院」としてスタートした大学院地域文化研究科人間福祉専攻心理学領域は、平成20年に日本臨床心理士資格認定協会から「臨床心理士養成に関する第1種指定大学院」の指定を受けました、同研究科からはこれまで55人の臨床心理士資格取得者を輩出しています）。

同相談室では、乳幼児や高齢者を含む学外・一般の方々、そして学内の教職員・学生の皆さんを対象に、「こころの健康」に関する相談を受けつけています（相談は事前に予約が必要です）。

実際の心理相談には、臨床心理士の有資格者である本学の教員（5名）と嘱託職員、そして、教員の指導の下、訓練を受けた大学院生が対応いたします。

心理相談室のスタッフは、スクールカウンセラーとして、長年、子供の問題に取り組んできたキャリアを有しており、学習障害や発達障害、子育て、学校現場での児童・生徒への対応の問題、スポーツ選手のメンタルトレーニングなど幅広い相談に応じます。また、ストレスから生じる様々な心理的問題や、より良い生き方を求めて悩んでいる方々の相談も受けつけています。

「生涯学習を支える」

民学連携講座『琉球泡盛学』講座（沖縄経済環境研究所）

Key Word: 泡盛、地場産業、食文化、伝統、寄付講座

泡盛は沖縄の伝統、文化、そして自然を理解する上で欠かせない存在であると同時に、沖縄産業振興計画において重点産業として位置づけられる等、県経済の発展に重要な役割を果たしています。

沖縄経済環境研究所では、沖縄から全国、そして世界へと泡盛の素晴らしさを啓蒙・普及する人材を育成することを目的とした、沖縄県知事認証資格の「泡盛マイスター」取得に必要な知識を総合的に学ぶことができる、一般社団法人泡盛マイスター協会による寄付講座『琉球泡盛学』を「民学連携講座」として開講しており、平成24年度の開講から今年度は第7期を迎えることとなりました。

本年度も前期に琉球泡盛学講座Ⅰ（理論：泡盛に関する基本的な知識と、沖縄の歴史を含む総合的な知識講座）を開講し、7月23日（月）には修了式が行なわれ、名嘉座元一所長の挨拶の後、受講回数が10回以上の講座修了者には沖縄経済環境研究所から修了証書を授与しました。なお、当日は泡盛マイスター協会副会長 喜瀬真三氏よりご挨拶を賜りました。



沖縄経済環境研究所 名嘉座元一所長



修了証書授与式（修了者を代表して）



一般社団法人泡盛マイスター協会
副会長 喜瀬真三氏

※後期は、琉球泡盛学講座Ⅱ（実技：一般酒・コース/古酒の識別等テイasting実技、サービス実技）の開講を予定しており9月24日まで受講者を募集しております。

香川大学における学生支援事業と社会連携・社会貢献(1)

今回は本学の日本文化学科の学生達の取り組みを紹介している関係で、学生達の取り組みを支援する事業を紹介する。香川大学の学生支援プロジェクト事業である「香大生の夢チャレンジプロジェクト」は、「学生の自主性、積極性、創造性を高め、学生生活の活性化・充実を資すると共に、大学教育の改善や地域社会の発展に貢献することを目的」に平成18年度から始まった。プロジェクトの範囲は特に分野を設けておらず、地域活動や自主的活動、交流イベント、ボランティア活動などが中心となっており、それらの活動には学長戦略による施策の一つとして経費が配分される。

募集部門は「スタートアップ部門(新規)」「ロングターム部門(継続)」「チャレンジ部門(継続)」の3つに分かれ、年度開始の4月初旬に事業説明会・相談会があり、公募が開始され、4月下旬に「必要経費内訳書」や「申請書」の提出後、5月に書類選考やヒヤリング、6月には選定・配分額が決定、11月に中間報告、3月に最終報告会の日程となっている。

香川大学地域貢献<https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/projects/dream/>

図書館長 上江洲 薫

「学生の学びと社会貢献・地域連携」

(「図書館情報学特別演習Ⅱ」での取り組み 日本文化学科)

Key Word: 図書館のPR、司書、アクティブラーニング

公民館図書室のリニューアルにチャレンジしました！テーマは「あおぞらいぶらりー」

日本文化学科では、司書課程の学生が受講できるアドバンスド科目「図書館情報学特別演習Ⅱ」にて、図書館の現場の皆さんと協働しながらいろいろなことにチャレンジするプロジェクトを進めています。

今年度第2弾のプロジェクトでは、宜野湾市にある中央公民館の図書室のPR大作戦、ということで、利用者・市民を図書室に呼び込むためのサインパネルやステッカー作成などを行いました。

今回のプロジェクトには、「あおぞらいぶらりー」というタイトルを付けてみました。最初に図書室を訪問した際、司書の崎原さんより、図書室が公民館施設の最上階にあるため、ホール利用者やサークル関係者にその存在が伝わりづらい、という課題があることを教えていただきました。学生たちは、こうした施設上の課題をプラスに転化して、利用者へアピールできる方法がないかを検討しました。その結果、

①3階の大きな窓から宜野湾市を一望できる景色が素晴らしいこと、

②3階まで上り下りしなければならないことはかえって健康的であること、
という、この公民館図書室ならではのオリジナリティがあることを発見しました。

また、崎原さんからは、平日の利用が少ないこと、子どもに「本を読みなさい」と図書室につれてくる保護者もおられるが、保護者自身が読書を楽しんでいないとなかなか子どもには伝わらないこと、などの問題を感じているというお話もありました。

こうした点も考慮して、平日に公民館を利用される方々(サークル関係者、主婦の方、お年を召した方)を主なターゲットとして、「素敵な景色に癒されながら、健康にもなれる」というPRを展開しつつ、図書室の存在を知ってもらい、読書の楽しさや日々の生活に役立つ機能を知っていただけるようなサインパネルやロゴステッカーを作成することになりました。

制作したパネルは次の6種類です。

- ①公民館入口のWELCOMEボード
- ②2F吹き抜けの段ボールパネル
- ③「図書館まであと〇メートル」と書いた階段推奨パネル
- ④階段から上がったところのマスキングボード
- ⑤図書館入口のWELCOMEボード
- ⑥近くの市役所に置いてもらうオリジナルロゴステッカー



まだ少し微調整が必要な部分もありますが、今回のリニューアルをきかっけに、小さなかawaii、青空が見える素敵な図書室をぜひたくさんの市民の方に利用してほしいです。

⇒この活動のなかで行った、地味な壁をマスキングテープで飾り付ける取り組みがとても好評で、後日、公民館のウォールイベントにも採用してもらいました。このイベントも学生がお手伝いしました。

図書館情報学ゼミの学生さんたちによる宜野湾市立中央公民館の図書室のリニューアル。図書室周辺の壁をマスキングテープで飾り付けた取り組みが大好評だったので、公民館のイベントとして館内のいろいろな場所を飾り付ける子ども参加イベントが開催されることになりました。

司書課程の学生さんたちもこのイベントにアシスタントとして参加し、春夏秋冬をテーマとして、それぞれの季節に合わせた飾りつけのお手伝いをさせていただきました。

今回のウォールイベントは30人くらいの小学生のバレーボールクラブの子どもたちや、一般参加の方もたくさん来てくれたので大盛り上がりで、大人も子供も夢中になって、とてもクオリティも高いものになりました。

13時から公民館図書室でくろうさぎさんサークルの読み聞かせもあり、『おおきくおおきくおおきくなあれ』では、学生たちも掛け声のお手伝いもさせていただきました。

夏休みのとても楽しい思い出になりました。



※本記事は日本文化学科FaceBook

「沖縄国際大学日本文化学科（おきこく・にちぶん）」からの転載記事です。

香川大学における学生支援事業と社会連携・社会貢献(2)

前号に引き続き、香川大学の学生支援プロジェクト事業である「香大生の夢チャレンジプロジェクト」を、特に平成30年度の採択されたプロジェクトの詳細を紹介する。

学生団体「cocokara」が進めるプロジェクト「ココカラ未来の学校2018」では、「地元のこどもたちに社会の広い世界を知り、自分の可能性を広げ、未来に夢や希望を持って欲しい」と願い、子供と大人が「未来のまちづくり」をテーマにワークショップを開催したり、地域の現状を考える手段として、子供たちが商店街で仕事体験を行っている。香川大学農学部公認サークル「Lieto Ottimo」は美味しく楽しい料理の科学をテーマに活動している。このサークルは「食べ残しを減らそう～千里の道もエッグから～プロジェクト」を実施しており、「昆虫機能を利用した食品廃棄物の利用を通して、新しい家畜飼料」を「用いて生産された鶏卵で料理を作り、資源循環の重要なメッセージを伝え、興味、関心を人々に持っていただくことと、食べ残しを減らすための啓発活動」を行っている。「和文文化おもてなしプロジェクト」を主催するSPOTは、「香川県を訪れた外国人観光客に、外国語(主に英語)によるツアーで「おもてなし」している。学生たちの活動は、TwitterやFacebookなどで紹介され、活動の分配額は13～26万円程度となっている。

香川大学地域貢献<https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/projects/dream/>

図書館長 上江洲薫

「学生の学びと社会貢献・地域連携」

若者たちによるまちづくり（企業システム学科髭白ゼミ）

Key Word: 若者、まちづくり、市街地の活性化、空き店舗の活用

髭白ゼミでは昨年(に)続き今年も沖縄市『若者目線のまちづくり講演会』で報告を行いました！(昨年の内容は下段囲み記事参照)

2019年1月12日(土)に、企業システム学科・髭白ゼミは、沖縄市中心市街地活性化協議会主催『若者目線のまちづくり講演会』(会場:沖縄商工会議所大ホール)で、本ゼミ学生によるまちづくりのためのプロジェクト活動報告を行いました。

企業システム学科・髭白ゼミ(3年次)では、沖縄市中心市街地ならびに商店街が抱える問題に対して、学生の目線からまちづくりの実践と提案を行うことを目的として、約1年間にわたって沖縄市中心市街地活性化協議会にご協力いただきながら活動してまいりました。講演会では、ふたつのプロジェクトについて実施結果を報告させていただきました。

①「キングス観戦&一番街探検プロジェクト」

プロスポーツの観戦客を商店街に誘客するための観光プランの実践報告。

②「一番街商店街 学生による店舗活用」

商店街の空きスペースを利用して、若者をターゲットにした店舗経営の実践報告。

また、東京・国立市のNPO法人「く」にたち富士見台人間環境キーステーション」から田中えり子氏(編集ライター)、佐藤優一氏(一橋大学社会学部2年生)を講師としてお招きし、大学と地域を結ぶまちづくりのあり方や若者を受け入れるまちの仕組みづくりなどについてご講話いただきました。学生たちが楽しみながら主体的にまちに関わろうとする姿勢がとても印象的でした。(本記事はオキコクスタイルからの転載です。)



昨年度は、2月11日に『若者たちによるまちづくり勉強会』で「沖縄市中心市街地の現状と課題～商業と観光の視点から～」の調査報告を行ったほか、勉強会では、和歌山大学経済学部足立基浩教授ならびに足立ゼミの学生を講師としてお招きして、和歌山市「ぶらぐり丁商店街」における和歌山大学の学生による空き店舗活用事例についてご紹介いただきました。沖縄市と和歌山市、ふたつの商店街の歴史や現状を比較することで、中心市街地の活性化につながるヒントを得る貴重な機会となりました。

「研究活動と社会貢献・地域連携」

講演会・公開シンポの開催、無料の法律相談（沖縄法政研究所）

Key Word: 法と政治、地方自治、市民生活

沖縄法政研究所は、沖縄にかかわる法と政治の諸問題を研究する目的で、1997年11月に設立された研究機関です。本研究所は、研究者や学生、大学院生を対象とした研究会（これまでに67回開催）や前対象者に市民を加え講演会（これまでに41回開催）や公開シンポジウム（これまで16回開催）を開催する他、本学の学生や研究所に直接お越し頂ける方を対象に無料法の法律相談を行っています。今年度は、これまで3件の研究会と2件の講演会、1件のフォーラム・シンポジウムを開催しました。

- ・第65回研究会「宮古島人頭税廃止運動の意義－請願権の観点からの考察－」
- ・第66回研究会「米軍機事故への危機管理対応に関する3都県比較研究」
- ・第67回研究会「アンシトラル動産担保モデル法等の実務的課題の検討」
- ・第40回講演会『建議書』は生きている－沖縄の現状がその証－
- ・第41回講演会「刑事弁護が社会を変える－GPS捜査違法事件を中心に－」
- ・フォーラム第17回シンポジウム「『追跡 日米地位協定と基地公害 太平洋のゴミ捨て場』と呼ばれて」をめぐって－法的、歴史的、政治的視点からの検討－

なお2月28日（木）には民意とメディア－「辺野古」県民投票に関するニュース報道をめぐって－と題して、以下の概要で第68回研究会を開催する予定です。

（研究会報告概要）

2019年2月24日に「辺野古」県民投票が沖縄全県で実施される予定です。今回の県民投票は、辺野古への普天間飛行場移設・新基地建設のための土砂投入が現実に進められるなかで、これまで繰り返し示されてきた沖縄の民意をあらためて示す／問う、一つの重要な機会として位置づけられています。

本報告では、2018年10月26日の県民投票条例制定以後の、「県民投票」を巡る動きに連動したニュースメディアの報道内容（おもに沖縄の県紙『琉球新報』と『沖縄タイムス』の記事）の特徴をみていくなかで、民意とはなにか、民意とメディアはどう関係しているのか、ローカル・ジャーナリズムの役割とは何か、などを検討したいと思います。

沖縄法政研究所 第68回 研究会

民意とメディア

－「辺野古」県民投票に関するニュース報道をめぐって－

報告者 吉岡 至

関西大学社会学部教授
沖縄国際大学法学部研究員

コメンテーター

普久原 均

沖縄法政研究所特別研究員
琉球新報社執行役員編集局長

司会 佐藤 学

沖縄法政研究所所長
沖縄国際大学法学部教授

日時 2019年2月28日（木）

14:00～16:00

場所 普天間大13号館1階 会議室

対象 県民、特別研究員、院内教職員、

法学学生、大学院生

お問い合わせ

沖縄国際大学法政研究所

電話098-952-7987

098-952-1111（内線110）

〒901-2701 琉球新報社ビル内2F-1

【報告概要】
2019年2月24日に「辺野古」県民投票が沖縄全県で実施される予定です。今回の県民投票は、辺野古への普天間飛行場移設・新基地建設のための土砂投入が現実に進められるなかで、これまで繰り返し示されてきた沖縄の民意をあらためて示す／問う、一つの重要な機会として位置づけられています。
本報告では、2018年10月26日の県民投票条例制定以後の、「県民投票」を巡る動きに連動したニュースメディアの報道内容（おもに沖縄の県紙『琉球新報』と『沖縄タイムス』の記事）の特徴をみていくなかで、民意とはなにか、民意とメディアはどう関係しているのか、ローカル・ジャーナリズムの役割とは何か、などを検討したいと思います。

「現職教員（生涯学習）と教育を支える」

教員免許状更新講習（同運営委員会）

Key Word: 教員職員免許法、教員の資質能力保持、教育課題解決のための技能や知識

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入されました。教員免許更新制は、その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものです。（文部科学省制度概要より）

この法改正を受け、本学でも、教育職員免許法第9条の3、免許状更新講習規則（文部科学省令第10号）に基づき、直面する教育課題の解決に必要な教員としての技能知識を確実に保持し、教員の資質・能力をリニューアルすることを目的として平成21年度からこれまで十年に渡り歴代副学長を委員長とする教員免許状更新講習運営委員会（窓口は学務課）の運営の下、教員免許状更新講習を開催して来ました。（下票参照）

本講習は、前記の目的を実現するために、沖縄国際大学が文化系総合大学として、学問の自由を尊重し、多彩な専門研究者の学問的魅力やこれまでの教職課程教育の成果を教育界へ還元することによって、現職教員と大学研究者が最新の知識・技能を相互に学習・研究する場として行われることを方針としています2019(平成31)年度も選択必修1、選択11の計12講座の開講を申請しており、現在文部科学省の認定通知を待っているところです。

年度	講座日程	開講数	受講延べ数	委員長	副委員長	事務担当
H21	7月30日(木)～8月21日(金)	13講座	102名	新垣誠正	森田満夫	我那覇いくみ
H22	8月7日(土)～8月17日(火)	10講座	213名	照屋寛之	野見 収	上江洲安理
H23	8月7日(日)～8月19日(金)	15講座	302名	照屋寛之	野見 収	上江洲安理
H24	8月4日(土)～8月24日(金)	15講座	283名	狩俣恵一	野見 収	上江洲安理
H25	7月27日(土)～10月26日(土)	14講座	173名	狩俣恵一	仁野平智明	仲西かおり
H26	8月2日(土)～8月22日(金)	9講座	164名	狩俣恵一	崎浜 靖	仲西かおり
H27	8月6日(木)～8月21日(金)	7講座	126名	狩俣恵一	野見 収	仲西かおり
H28	8月5日(金)～8月19日(金)	9講座	140名	小柳正弘	藤波 潔	當山仁健、大城沙織
H29	8月6日(日)～8月26日(土)	9講座	120名	小柳正弘	藤波 潔	大城鈴香、大城沙織
H30	7月28日(土)～8月17日(金)	10講座	104名	小柳正弘	藤波 潔	大城鈴香、大城沙織

※教員免許状更新講習運営委員会記録より作成